



# 東洋大学 機械工学科同窓会会報

第16号  
平成29年  
9月1日

機械工学科同窓会 会報 第16号を発行いたします。

今回は、神田様のご活躍の紹介をさせていただき、次号で最終講義を紹介いたします。

無事卒業しました ～アカデミアでの26年～ 神田 雄一（5期生）

記憶が定かではないのですがたしか最終講義の後だったように思います。田口会長より退任に当って何か寄稿せよとのご指示をいただいた。それが一月末のことでありましたが仕事にかまけてそのまま3月の定年退職を迎え、お陰様で無事に卒業することができました。四半世紀をちょっと過ぎるまでアカデミアの世界に籍を置いたこととなりますが、そこで思いつくままに26年間携わった教育、研究、学会活動、大学運営、OB会活動などについて脈絡無く書いてみました。老人の懐古趣味に陥るかもしれませんがご容赦いただきたい。



26年前の就任当初の研究室名は「神田研究室」でしたがその後「生産自動化研究室」そして「生産工学研究室」へと時代の変化とともに名称も変遷しました。機械工学科の中でも生産工学に関する分野は初代工学部長の大越先生を始めとして、成瀬政男、木下直治、上原邦雄、笠原英志、清澤文彌太の歴代各教授が活躍され、私もこの系譜の中で活動し、成果を挙げたいとの希望を持っていました。当研究室では、生産加工や生産システムに関する基盤技術の研究開発をハードとソフトを融合させる点に重きを置いて実施してきましたが、切削加工、中でも超精密切削加工（切込み深さ50～10 $\mu$ m）は、赴任当初に文科省よりの補助金をいただいて東芝機械製の超精密加工機（当時は全国でも数台しかないもの）を設置し、脆性材料や金属ガラスなどへの適用や加工雰囲気による効果を中心に基礎的実験を行い多くの知見を残すことが出来ました。超精密切削による鏡面を用いてドブソニアン型の天体望遠鏡の作製などもした事は楽しい思い出です。

今やLANやインターネットは当たり前ですが、研究室開設当時は川越地区でやっと開通したばかりのISDN（東洋大学での敷設1号）を用いて、工場自動化のための遠隔監視システムの実験をしました。当時は工場のネットワーク化が進展する時期と重なり、注目されていた「MAP(Manufacturing Automation Protocol)」を導入し、自動化機器の監視や制御に関する研究を行いました。その後、工場の制御用ネットワークの標準となる「FL-net」の開発につながりました。

「FL-net」は我が国のベンダー各社が協力して開発した制御用ネットワークで、後に日本機械学会の新技术賞をいただきました。標準化やオープン化をキーワードとした支援技術の開発はいわば私のラ

鏡面加工



イフワークになりました。これら一連の活動に対して経済産業大臣表彰をいただきました。ありがたいことです。研究の多くは機械振興協会技術研究所の木村氏との共同研究を実施し、国際会議に多くの研究を発表することが出来ました。これらの研究は現在の IoT や Industry4.0 のコンセプトに繋がるものでした。

20世紀後半は地球環境問題が喫緊の課題となりました。そこで環境対応型生産システムに関する研究を行い、機器の分解性やリサイクル性向上のために DfE (Design for Environment) 設計に注目しました。また生分解性プラスチックの機械部品への応用を目指して加工性の評価などに注力しました。さらに MQL (Minimum Quantity Lubrication) 切削では特に難削材への適用を中心に進め、精密工学会の専門委員会では環境対応型切削加工に関する分科会の主査を務めました。

大きな印象に残っているのは 3.11 東日本大震災でした。わが国のものづくりのあり方を根本から考え直さなければならなくなりました。そこで新たにレジリエンスの概念を導入した生産システムを考えると共に日本型のものづくり再生についても思いをめぐらせました。これは日本の伝統工芸に生きている価値観を再考し、新たなものづくりの仕組みを考えることでした。まさに温故知新といえるでしょう。これは今でも引続き再考を重ねています。

研究室は研究の場であると同時に教育の場でもあります。26年間約300名余の学生諸君が巣立ちました。学生には一人1テーマでの卒業研究を課しました。これは卒業研究をパーソナルプロジェクトと位置づけ、プロジェクトマネジメントを自ら実践してもらおう事を意識しました。将来エンジニアとなる諸君には、与えられた課題を通して問題解決のプロセスを学んでもらうと同時に「工学的センス」を磨き、「感性」を豊かにし、エンジニアとしての資質を育んでもらうように心掛けました。教員と学生は一期一会ですが、卒業後も研究室ネットワークを生かして絆を保っています。それにしても当研究室を希望する学生諸君の多くが体育会系なのはどうしてでしょうか？研究室では毎年夏に大学のセミナーハウスでの研究室ゼミ合宿を実施しましたが、その時のスナップ写真を研究室の壁に26枚掛けることが出来ました。これは大変良い思い出として残っています。

大学での講義は、「生産システム」を中心に講義をしましたが最初は市販の教科書を選択し使用していました。しかしいづれも帯に短したすきに長しで結局自分で教科書を執筆し「はじめての生産システム」(森北出版)としてまとめました。丁度、恩師である上原邦雄先生の定年退職と時期が重なり先生に捧げる事が出来ました。少しでも恩返しが出来たのではと感じています。「機械設計法および演習」も長く担当した講義の一つですが、最後の数年間は田口会長にご無理をお願いして一緒に授業を担当しました。この授業では PBL (Project Based Learning) 授業を指向して学科における PBL 授業の先鞭を作りました。このような授業も含めて機械工学科ではものづくり技術者を育成する教育理念を掲げ、カリキュラムの構成を考えていますが、学科の教育に対して JABEE (日本技術者教育認定機構) の認定をいただきました。これは今でも継続しています。

最近では、大学教員の役割は大きく教育、研究、学内業務それに学外活動と言われています。私も就任して2年目ごろから学部の各種委員、例えば図書委員や入試委員等々に参加するようになりました。そのうちに全学の委員会に出席したりさらには委員長を任されたりもしました。そのうち学科主任(現学科長)のお役が廻ってきましたが、先に述べた JABEE の認定に寄与することができました。亡くなら

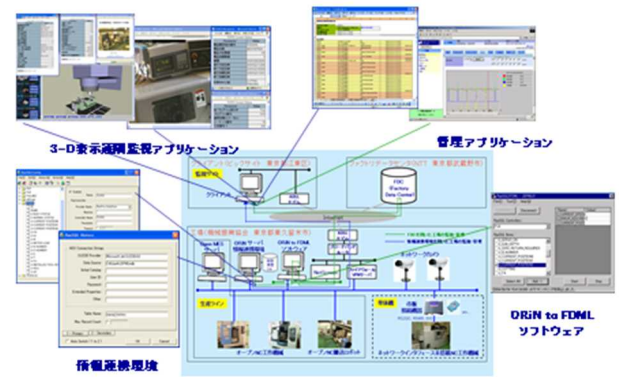


図2 生産システム支援技術

れた内田雄造先生（建築学科）が新学部長に推薦された折、因らずも小生に学部長補佐の下命をいただいた。内田工学部長の下で4年間学部行政に携わった経験が後の学内行政に大いに役立っています。学部長補佐の任期終了とともに、新たな学部長の下で教務委員長のお役が回ってきました。丁度カリキュラム改訂の時期であったので、新たな工学教育に取り組みました。一年生の必修科目として「エンジニアのための哲学」を設置し、数名の先生と協力して教科書も作成しました。今では全学的に哲学教育は一つの基盤科目として位置づけられていますが、当時としてはエンジニアの倫理教育を扱った先端的な科目でありました。年齢もそろそろ65歳に近づき、日本機械学会、精密工学会さらにプロジェクトマネジメント学会等の役員や他大学での非常勤講師などを後輩に託しました。そのような時期の年末に2011年4月からの副学長への就任が決まりましたが、明ける年の3月1日は東日本大震災があり卒業式が出来ませんでした。しかし入学式は実施すると法人の決定がなされ、副学長としての公の場での活動は4月6日の武道館での入学式で非常に緊張感のある中で挙行され、印象深いものでした。副学長在任中は、125周年行事、スーパーグローバル大学支援事業の採択、大学基準協会の認証評価への対応など担当副学長としていくつかの全学的な委員会の長を務めました。その間、箱根駅伝の総合優勝、リオデジャネイロオリンピックでの本学学生の活躍などもあり、本学のステージもステップアップする時期と重なって活動できたことは大変幸せに感じています。

私の学生時代は勉強もさることながら体育会スキー部と鉄道研究会に所属して本当に青春を謳歌した感です。その縁もあり、大学に赴任後体育会スキー部の部長を退職の9月まで務めました。ここでの学生諸君との交流は普段とはまた異なる楽しさがありました。

最後にOB会活動について触れておきましょう。機械工学科のOB会活動はご承知のように会長をはじめとする幹事各位の熱意により活発な活動を展開しています。しかしながら多くの卒業生が親しく一堂に集うところまではいかないのが現状でしょう。2000年を過ぎた頃少子高齢化などの理由により将来、大学への進学者が減少することが予測され、当時の米山工学部長は川越キャンパスのサバイバル計画を立案され、その一環として工学部卒業生の支援策をOB教員である松下（建築）、又重（応化）それに神田に託されました。そこでの検討を踏まえて各学科OB会を束ねた連合体を組織して卒業生、在校生さらに大学へのサポートを主体とする「工学部連合育成会」が2006年に誕生しました。大学からの資金援助もいただきながら活動を展開してきました。もとより卒業生のみでは活動が十分ではないので教職員の皆様にも支援をお願いしました。その後、紆余曲折を経て2016年に現在の「川越キャンパス同窓連絡協議会」へと発展し、機械工学科OB会長田口氏が初代議長として活躍されておられます。当初よりご尽力いただいた松下先生が新たな発展を目前にして急逝されたことは大変悔やまれることです。ある調査によりますと本学卒業生の本学に対する帰属意識は他大学に比して希薄であるとの結果が出ています。その原因はそれぞれありまじょうが、大学の卒業生に対する支援の有り様も一因でしょう。大学もその後、卒業生室を開設して改善に努めていますが、我々卒業生ももっと誇りを持って本学卒業生であることの自覚と責任を持って活動したいものです。大学にとって卒業生は最も大きなステークホルダーなのでありますから。

私の最終講義は本年1月23日に就任以来26年間続けてきた「生産システム」の講義を最終講義と決めて行いました。広く広報しないにもかかわらず同級生、卒業生、OB会、教職員さらに仕事でお付き合いの深かった方々がお集まりいただき、大変感激すると共に感謝の気持ちで一杯になりました。最後に学生の一人から「教員生活で一番の思い出は何か？」との質問をいただきました。多くの事柄が去来しますが、やはり3.11の大震災の折、小生の研究室に塩釜出身の学生がおり、一週間近く連絡が途絶えたままで安否消息がつかめませんでした。皆で心配をしていたところやっと開通した携帯電話の向こうで「生きてます・・・」の一言に本当に胸をなでおろした。彼らと一緒に卒業式はついに行われませんでした。





最終講義後の記念写真

古希を過ぎてからの活動は、目標の無い活動、すなわち利他の活動が大事といわれておりますが、特に加工技術は現場に密着した基盤技術であり、そこでは日々多くのエンジニアが苦勞しています。「産業は学問の道場である」と言われた本多光太郎博士の言葉は、「向上するは向下せんためなり」と説かれた井上円了先生に相通じるところがあると思われまゝ。私も今でも工場現場を訪れてお手伝いをしていますが、これはこれからの私の活動であろうと思っています。

最後に在職中は多くの皆様に支えられ、励まされ大変お世話になりました。ここに衷心より御礼申し上げる次第です。機械工学科 OB 会の益々の発展を祈念すると共に多くの卒業生が本学のために少しでも寄与して頂ければそれに勝るものはありません。皆さんと共に母校を支えていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

□ 以上

## 理工学部近況

## 山川教授

### 《 平成28年度卒業式、卒業証書・学位記授与式 》

平成28年度3月卒業の卒業式・学位記授与式が平成29年3月23日に日本武道館において大学全体の式として行われました。全学で大学院生270名、学部生6,351名が修了または卒業いたしました。そのうち、機能システム専攻修了生6名、および機械工学科卒業生128名に川越キャンパスにて卒業証書・学位記が授与されました。また、機械工学科の全卒業生には、卒業証書・学位記とともにJABEE修了証が渡されました。

学科の卒業証書授与式において、成績優秀者や優れた卒業研究を行なった学生に以下の賞が授与されました。

東洋大学校友会学生研究奨励賞	大庭 智和 君
日本機械学会畠山賞	佐藤 悠人 君
同窓会連合優秀卒業研究賞	鈴木 聖也 君
機械工学科奨励賞 (5名)	村中 智彦 君、松島 史弥 君、大内 光宣 君、 天瀬 堅太 君、青木 亮平 君



《 平成29年度入試および入学状況 》

平成29年度の機械工学科の入学試験は、平成28年11月の付属高校、指定校などの推薦入試に始まり、平成29年3月実施の3月入試で全ての入試が終了しました。平成29年4月には本学科に180名（男子174名、女子6名）が入学いたしました。

全学的には全入試でのべ志願者数が101,180名となり、10万人を超えて昨年を上回る結果となりました。赤羽台の新キャンパスの新学部設立が大きな要因の一つです。

【機械工学科人事異動】

退職 神田 雄一 教授

着任 窪田 佳寛 准教授

【平成29年度機械工学科教員の主な役割】

学科長 山川 聡子 教授

学科幹事 山田 和明 准教授

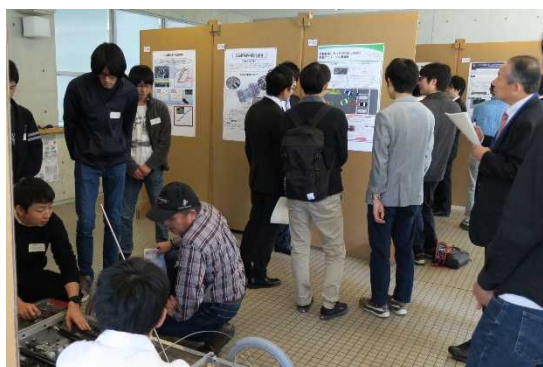
教務担当 松本 潔 教授、藤松 信義 准教授

就職担当 松元 明弘 教授、藤岡 照高 教授

機械工学科教員数：17名

《 理工学フォーラム 》

平成27年度より、理工学部と大学院理工学研究科では川越キャンパスの活性化のために研究発表等を行なう理工学フォーラムを開催しております。平成28年度も10月15日に開催し、多くのOBの方のご参加をいただき、大変素晴らしいフォーラムとなりました。



《 機械工学科ホームページ 》

学科のイベントやニュース、教員紹介の詳細などは学科HPに掲載し、随時更新しております。<http://www.toyo.ac.jp/site/dmec/>をご覧ください。

## 機械工学科同窓会年次総会 報告

年次総会を次の内容で開催いたしました。

開催内容 平成 28 年 10 月 15 日（土） 15：10～

場所 東洋大学川越キャンパス 2104 教室（2 号館 1 階）

### 議事次第

1. 開催の挨拶 田口 機械工学科同窓会長
2. 来賓のご挨拶 東洋大学同窓連絡協議会 松元機械工学科教授
3. 総会議事 田口議長を選出
  - 1) 平成 26 年度活動報告  
別紙 1 の内容で報告し拍手で確認した。
  - 2) 平成 26 年度決算報告及び監査報告  
決算内容を別紙 2 で行い古屋監査が監査結果を報告し拍手で確認した。
  - 3) 平成 27 年度活動方針（案）  
別紙 3 の内容で提案を行い拍手で承認された。
  - 4) 平成 27 年度予算（案）  
別紙 2 の内容で提案を行い拍手で承認された。
  - 5) 会則の変更  
別紙 4 の変更を提案し文字抜けの指摘があったが内容を拍手で承認した。



別紙 1、[活動報告](#)

別紙 2、[会計報告](#)

別紙 3、[活動方針](#)

別紙 4、[議題 会則変更](#)

川越フォーラムと同日開催で年次総会を開催し、H27 年活動報告、決算報告、H28 年活動計画、予算を承認いたしました。交流機会として 12 名の在校生有志で、高崎市青年商業者研究会が主催する「TSK キッズ広場 With ゴム動力自動車コンテスト」へ参加計画と実車を紹介し奨励賞を贈り激励した。

<http://www.tsk1958.net/information.php?eid=00027>

## 同窓生の近況 ～長島 敏昭 66 歳 埼玉県さいたま市在住

1972 年卒長島さんが、東京都交通局の「東京都電 diary」へ応募し、長島さんの思い出エピソードが東京都ホームページへ掲載されました。

題名「**運転手さんに乗せてもらったゴツイ電車**」

URL：<http://tokyo-toden-diary.jp/>

思い出がタビ  
東京都電 diary

みんなの思い出をのせ、荒川線は未来へ走る。

かつて都内の交通機関の主役として活躍した都電。自動車の普及にともない姿を消す中、最後まで残った 2 路線を一本化し 1974 年 10 月 1 日に誕生したのが荒川線です。10 月 1 日は「荒川線の日」。そして今年には、都電が市電として誕生して 105 周年の年。東京都交通局では「東京都電 diary」と題し、皆さんの思い出エピソードを募集しました。いよいよ来週から、入選作 50 本を随次掲載予定です。連載に先立ち、特別審査員の倍賀千恵子さんと、東京都交通局の元局長・寺内廣義さんの特別対談をお届けします。



## 川越まつり山車ロボットコンテスト 2016 へ審査員で参加しました。

「山車ロボットコンテスト」は機械工学科の教員で構成する実行委員会が主催・運営しており、今年で11回目の開催となります。審査員の派遣要請に対応し25期琴坂幹事が参加しました。



同窓会賞の表彰風景



参加者と記念撮影

開催内容の詳細は、東洋大学のホームページをご覧ください。

<http://www.toyo.ac.jp/site/dmec/311428.html>

## イベントのご案内

10月21日 機械工学科同窓会 総会・交流会 の開催： ホームカミングデーin川越が開催されます。

総会の開催時間、教室は別紙のご案内を参照ください。

11月5～6日 こもれび祭 開催

4日に同窓会連合ブースの設置いたします。お立ち寄りください。

### <<募集します>>

同窓生の親睦を目標に、4項目を募集いたします。詳細は裏面に記載

同窓会シンボルマーク

- ① 同期会の開催、②企業内の新入生歓迎会の開催報告、③会社見学会の開催協力、④機械工学科同窓会へ寄付のお願い 同窓会室へメールでご連絡ください。



同窓会  
ホーム  
ページ

川越キャンパス同窓会室 同窓会連合 4号館4階

TEL : 048-239-1679 URL : <http://www.toyo.ac.jp/site/kawagoe/>

機械工学科同窓会(川越キャンパス同窓会室内)

TEL : 048-239-1679 URL : <http://www.toyomec.jp/>

## 同窓会結成 30 周年大同期会 (2021 年開催) に向け寄付と終身会費納入のお願い

卒業生間で親睦を図る場として同窓会を維持しております。今後の発展・拡大を目指して会報発行などの活動を会費・寄付に支えられ継続できています。在学生会は準会員として参加、卒業後は自動的に会員へ移行いたします。寄付お願いの昨年から 2021 年開催までの 3 年間を同窓会活動 30 周年大同期会開催へ向け「積立て金」へ準備いたします。活動のご理解と参加のご検討をお願いし卒業生各位から終身会費、又は寄付をお願いいたします。

**終身会費 5000 円の納入 および 寄付 (最初の 5 千円は終身会費と扱います。)**

**郵便振替口座 東洋大学機械工学科同窓会 00150-2-752854**

### 昨年の寄付総金額

195 千円

### 開催基金へ積立

160 千円

(目標 600 千円)

### 記入例

卒業年

氏名

住所

払込取扱票 宛先払込科目金 加入者負担  
 00150-2-752854  
 東洋大学機械工学科同窓会  
 卒業年 5000円以上でお願いします。  
 〒350-8585  
 埼玉県川越市鯨井2100  
 機械 たろう 様

### ご寄付を頂いた方々

卒年	氏名
S40	荒井 敏正
S40	西峰 光男
S41	赤見 次治
S42	安藤 雅章
S42	小林 康男
S42	藁科 富一
S43	和田 典雄
S43	久住 宏
S43	栗田 元次
S44	高橋 一
S44	山岸 博司
S44	鈴木 進
S44	竹盛 寛
S44	松永 孝
S45	千田 秀一
S47	三上 尚
S46	曾田 富士雄
S47	田口 正和
S47	中田 年平
S51	田中 雅巳
S51	上菌 茂樹
S51	鈴木 勝利
S55	鳥野 幸一
S57	日南田 好信
S59	田中 功
H01	粕谷 雄一
H18	山口 裕岐

## 同期会の開催・会社で後輩の歓迎会の開催結果を募集・会社見学会の開催協力

◇ **60歳から65歳到達年で1973年～79年卒業生で同期会開催を募集いたします。**

開催支援内容で、①開催手順のサンプル、②同期生の連絡先と発送手順、③文例、④集合するための教室、近隣の懇親会開催場所の紹介、など川越キャンパスが久々でも開催を支援致します。卒業生室ホームページからメールでご相談ください。開催後に①同期卒業生へ連絡先の提供、②開催報告を同窓会報とホームページ掲載へ協力頂き機械工学科同窓会より通信費として20000円の援助をいたします。

➤ **5期同期会 (1969 年卒) が同期会を開催いたしました。**

5期の第一回同窓会は平成21年3月に開催し、今回は二回目の同窓会です。

卒業から47年、すでに還暦も過ぎ、古希を迎える歳になり、丁度区切りの良い年でもあり、最後の集まりにとなるのではとの思いで、同窓会を開催しようとの声があがり、開催する運びになりました。



工学部から理工学部が変わり、古い校舎はすべて新しくなりましたので、開催場所は川越キャンパスで行うことにしました。

日時は理工学部フォーラムと機械工学科の総会に合わせ平成28年10月15日(土)に開催することになりました。

同窓会室で住所が分かっている方83名に連絡をした結果、参加者は12名でした。懐かしいのですが、皆さん今となっては、川越は遠いと思われた方がいたのでは。

同窓会では神田副学長(同期)からスライドで大学の近況について説明された後、神田先生の案内で



構内を見学しました。その後に、機械工学科の同窓会総会に出席後、理工学部フォーラムの懇親会に参加させてもらいました。

懇親会后散会し、二次会には9名が参加して、昔話に花を咲かせました。

これからは参加した方の輪を広げ、連絡を取り合って小グループでの集まりを定期的に行うことになりました。参加される方は連絡先をお願いします。

幹事 伏見 信幸・神田 雄一（副学長）・大浦 昌久（機械工学科非常勤講師）

同期連絡先は [masa.oura@jcom.zaq.ne.jp](mailto:masa.oura@jcom.zaq.ne.jp) 大浦をお願いします。

※神田・大浦は本年度で定年となります。話に花を咲かせました。

#### ➤ 8期 1972年卒の古希会準備会を開催



校友会で活躍している長谷川さん、醍醐さんと新規に連絡が取れたのを機会に前回65歳到達時に開催した同期会メンバーと新宿で集合し交遊を新たにしました。

この機会に古希が近いので前回メンバーへ連絡をして同期会を開催する意見を聞きました。現役を基準にすると1年早いが2018年に開催する方向で連絡の準備を開始します。んら前は、手紙連絡しましたが開催案内が届いていない同級生は、下記田口メールへ連絡先（メールアドレス、住所）を送信してください。ご案内を2018年5月頃に郵送する予定です。

発起人 永瀬 誠二様・片岡 由高様（西澤様）・長島 敏昭様・大沢 清様・小島 啓行様・  
久保田 茂様・澤合 良一様・ほか（順不同）・

幹事 田口正和 連絡先 [taguchi128@toyo.jp](mailto:taguchi128@toyo.jp)

#### ◇ 歓迎会の紹介を会社単位で募集します。

同窓生の活躍する会社情報として歓迎会などの写真を投稿ください。

卒業生の会社リクルート活動へ活用してください。

#### <<マール フィルター システムズ 2017>>

在職者 25名が26名へ増加しました。業務の関係で欠席者がありましたが昨年の、H28（理）坂上・（理）鶴淵・（経）金子の幹事で

H29（理）河合の加入を歓迎しました。昨年加入者からこの歓迎会に参加して入社後に安心感を持てたとの話が聞けました。

会社 URL : <http://www.jp.mahle.com/ja/mahle-in-japan/mahle-filter-systems/>



#### ◇ 会社見学・工場見学へ協力をお願いできる会社を募集します。（同窓会室 田口宛へ）

卒業生各位が企業で受入した同窓生で在学中に勉強しておいてほしい内容が感じられましたら連絡ください。